

# 第53回 全国児童才能開発コンテスト

## 第53回 作文部門入賞者一覧

### ◆ 文部科学大臣賞〈低学年の部〉

愛知県蒲郡市 形原北小学校 3年 西山 里菜

### ◆ 文部科学大臣賞〈高学年の部〉

宮城県本吉郡南三陸町 入谷小学校 6年 三浦 なぎさ

### ◆ 全国都道府県教育長協議会会長賞

富山県下新川郡入善町 飯野小学校	1年	笹島 浩裕
山口県山口市 山口大学教育学部 附属山口小学校	2年	坂本 純優奈
東京都新宿区 学習院初等科	3年	青木 美咲
青森県上北郡七戸町 城南小学校	4年	工藤 海音
宮城県仙台市 東仙台小学校	5年	佐藤 優宙
宮城県仙台市 宮城教育大学 附属小学校	6年	勝山 史

### ◆ 全国連合小学校長会会長賞

愛知県岡崎市 竜谷小学校	1年	三宅 結翔
愛知県岡崎市 六ツ美中部小学校	2年	鈴木 望心
長崎県長崎市 長崎大学教育学部 附属小学校	3年	東 美桜
北海道札幌市 宮の森小学校	4年	松田 莉奈
愛知県岡崎市 岩津小学校	5年	今村 颯
福島県いわき市 好間第二小学校	6年	愛川 美空

### ◆ 日本PTA全国協議会会長賞

愛知県蒲郡市 塩津小学校	1年	春日井 莉子
愛知県蒲郡市 蒲郡北部小学校	2年	青山 颯

### ◆ 学研賞

愛知県岡崎市 竜美丘小学校	1年	池田 尚優
富山県高岡市 博労小学校	2年	田原 一斗翔
愛知県岡崎市 岡崎小学校	3年	道田 晴仁
愛知県岡崎市 竜美丘小学校	4年	石川 瑞桜
愛知県岡崎市 井田小学校	5年	柳瀬 栞里
愛知県蒲郡市 塩津小学校	6年	太田 絢加

### ◆ 菅公賞

愛知県岡崎市 矢作東小学校	1年	水野 具生
愛知県蒲郡市 蒲郡南部小学校	2年	岡田 ひかり
富山県南砺市 福光中部小学校	3年	三好 日向葵
新潟県長岡市 青葉台小学校	4年	宮下 月希
愛知県岡崎市 六ツ美北部小学校	5年	武内 祐樹
東京都小平市 東京創価小学校	6年	澁谷 美佳

### ◆ 才能開発教育研究財団理事長賞

愛知県岡崎市 六名小学校	1年	北村 憧香
愛知県岡崎市 六ツ美北部小学校	2年	神取 美早
愛知県岡崎市 竜美丘小学校	3年	市川 未莉
愛知県蒲郡市 竹島小学校	4年	宇野 紗田美
愛知県蒲郡市 蒲郡東部小学校	5年	坂本 彩乃
福井県越前市 神山小学校	6年	山腰 大輝

## 菅公賞 いっしょだよ

愛知県岡崎市 矢作東小学校 1年

水野 具生

指導者 梅村 和美



「ええん」あさからおとうとがなっている。ほくは、おとうとのなきごえでめがさめた。めをこすりながら

「どうしたの？なんでゆいくんないているの」とおかあさんにきいた。「ようちえんにいきたくないといっているの。」おかあさんは、すぐこまったかおでそういいました。

おとうとは、四がつかからようちえんにはいりなかなかようちえんになじめないらしく、まいにちあさおきるとなっている。どうしたらようちえんは、たのしいところだよとおしえてあげられるかほくは、かんがえた。

つぎのひ、ほくは、おとうとよりはやくおきて、おとうとがいつもあそんでいるブロックでようちえんをつくった。おとうとは、おきてすぐ、ほくのつくったブロックをみつけた。「よしっ」きょうはなかないぞ、ほくはおとうとに「ゆいくんがいつてるようちえんだよ。おともだちがたたくさんいてたのしいところだよ。」とおとうとに、ブロックをみせた。おとうとは

「ちがう、ようちえんなんかじゃあない。これはゆいくんのおうち」となきだしてしまった。

しっばいだ。それからおとうとは、ずっとなきやむことはなかった。

おかあさんにおこられた。「もうよいなことをして。」と。

ほくはおとうとがまいにちなっているのを、なんとかしようとおもったのに、なんでおこられるんだよとおもった。こうなったらせつたいに、ようちえんにいけるほうをかんがえてやるぞとおもった。ほくは、ふとひらめいた。おとうとはアンパンマンがだいすき。アンパンマンをつかっただけでなかないほうはないか、そういうえばおとうとはよくほくにえをかいとていってくる。えをかいとてあげるとすぐよくこぶ。ほくはおもった「これだ」と。

つぎのあさおとうとがおきてきた。ほくはおとうとに「ゆいくん、おまじないのえをかいとてあげるからてをかしして。」

「おまじない。」とおとうとがきいてきた。「まあいいからてをだして。」とほくがいうとおとうとは、おそるおそるてをだした。そのてにほくは、おとうとがだいすきなアンパンマンをかいた。みるみるとおとうとのかおがかわった。

「わあ、アンパンマンだ。」とばんざいしながらよろこんでいる。「よし、だいいちだんかいクリアだ。」つぎは、ほくのてにもアンパンマンをかいと。

「ゆいくんのはにはいちゃんアンパンマン、にいちゃんにはゆいくんアンパンマン。こうやって、てとてをあわせるとふたりのアンパンマンはげんきひやくばい、パワーぜんかいえがおができるんだ！」

「ゆいくんのアンパンマンがなっているときにちゃんはかなしくてパワーがでないんだそれでもないの？」とおとうとにきくと「ダメみんな、ないたらダメ」といった。

「じゃあこれからはなかにすにようちえんにいこうね」とほくがおとうとにいうと、おでこにわをよせながら「わかったなかない」といいながらほくのてに、じぶんのをあわせ「アンパンマンいっしょだよ。げんきひやくばい、パワーぜんかい！みんながおだよ」とわらっていた。

それからまいにちおとうとは、あさおきてきたらアンパンマンかいとてほくにいってくる。ほくもおきたばかりでえをかくのはたいへんだけれど、おおきななきごえをきくよりはいいかとおもいながら、えをかいとて。

おとうとよ、はやくえをかかなくてもなかにすにようちえんにいけるようになってくれとおもうほくがいます。

菅公賞

入賞  
おめでとう

# おねえちゃんなんてもついやだ

愛知県蒲郡市 蒲郡南部小学校 2年

岡田 ひかり

指導者 杉浦 容子

「こら！あなたたち！なんでいつも出しっぱなしなのー早くかたづけなさい！」

「えーのぞみが出したおもちゃだよ！」

「あんたもいっしょにあそんでたでしょ！」

今日も可愛いママにおこられました。のぞみというのはわたしの二つ下の妹です。よくこなふうにしかられて、ちらかしたおもちゃはわたしがかたづけます。妹はしらんぷりで、いつものまにかどこかへ行ってしまします。

「あーあ、わたしも妹に生まれたかったな。」

心の中でそんなふうによく思います。なんでわたしばかり。ひよつとして、ママはわたしのことがきらいなのかな。そう思っと思っていきってママに聞いたことがあります。

「ママはひかりのことが好きじゃありませんよ。」

「そんなことないよ。すきだよ。」

そう言ってくれたけど、ほんとかなあ、ぜんぜん気もちがもっていないし、たぶんウソじゃないかなあと、ずっと思っていました。

ある日、そのことをパパに話しました。

「たしかにママは可愛いよなあ。でもうんどう会やじきゅうそうプリーダーで、だれよりも大

きなこえで、ひかりー、ひかりーってママはおうえんしてたんだぞ。きらいだったらそんなにさげんでおうえんしないよ」

パパの話しをきいて少しほっとできました。

「うんどう会だけでなく、ほかにもいろんなことでがんばるすがたを見せてくれると、パパやママもうれしいしなくてきちゃう。それは二人のことが大すきだからだよ。」

ということも言ってくれました。それを聞いて

わたしはなんだか心がぼかぼかしてきて、はずかしいけどうれしかったです。

ただ妹ののぞみはあいかわらずで、かってにわたしのおやつをたべたり、たいせつにしまつてあるお気に入りのシールをつかってしまつたりとやりたいほうだい。わたしはそれをみつけるととてもはらが立って、ついつよくたいたり、けりとはしたりしてしまいます。妹のせいにかくはわたしとぜんぜんちがつて、はじめての人に

もあいさつができるし、しらない子ともすぐにお友だちになれちゃいます。

わたしはとてもはずかしがりやだから、はじめであう人やおなじ年の子にじぶんからはとても

こうふんして、

「いいじゃん、いいじゃん。二人のバトンをうけわたすところがみたくないなあ。おうえんするからがんばれよ！」

と言ってくれました。そういえばつうがくだんりレーは、きよねんも一年生から三年生へバトンをわたしているようでした。もし二人ともせ

んしゅにえらばれたら、

「ひーちゃん、ハイ！」

と言つてバトンをわたしてくれるのかな。

なんか考えただけでわくわくしてきました。のぞみといっしょにはしれたらほんとうにうれいんです。でもそのときは、ひーちゃん、じゃなくしておねえちゃんってよんでほしいです。

菅公賞

入賞  
おめでとう

# 命のバトンタッチ

富山県南砺市 福光中部小学校 3年

三好 向日葵

指導者 正平 浩美

「ゆき姉ちゃん、元気ですか。天国は楽しいですか。あのね、煌ちゃんが生まれましたよ。元気な男の子でお母さんのおっぱいをのんで大きくなっているよ。」

ゆき姉ちゃんは、お母さんのお姉ちゃんです。わたしのおばさんになるのですが、やさしくてよく遊んでくれたので、「ゆき姉ちゃん」とよんでいました。そのゆき姉ちゃんは、去年の十月八日にびょう気でなくなっていました。わたしのたん生日だったのに。くやしくてくやしくて、なみだが止まりませんでした。

それからしばらくたって、お母さんが、「お母さんのおなかに、赤ちゃんがやってきたよ。」

と言いました。

お父さんは、わたしとお兄ちゃんにとてもやさしいかおをして

「ゆき姉ちゃんの生れかわりや。」

と言つたので、わたしは、「え。」と思つたけど、すぐに、「そうや。お姉ちゃんの生まれかわりや。」と思いました。

お正月がやってきて、三学期が始まつた日、お母さんは、入いんしてしまいました。出血して赤ちゃんがあぶなくなつたからです。わたしは、ゆき姉ちゃんの写真に

「お母さんと赤ちゃんを守ってください。おねがいします。」

とまい朝おねがいました。二月になって、おかあさんはいいんしてきました。でも安せいにねていなくてはいけませ

話しかけることができませぬ。すぐに友だちをつくれる妹がときどきうらやましくなります。だからわたしは妹にいじわるになつてしまふのだと思います。こんなこともありました。あるあさ、目をさますと、妹がかってにわたしのお気に入りのグリーンのワンピースをきていました。わたしはもうゆるせなくてむりやりふくをぬがせようと思いました。

でも妹も一どいいでしたら、なかなか言うことを聞きませぬ。けつきよくママに言われてわたしがあきらめました。でもそこでもわたしは妹をつよくたいてしまいました。ときどきわたしのそういういじわるなところがじぶんでもいやになります。ただこういうことがあつてもしばらくすると妹は、

「ひーちゃん、ひーちゃん」

と話しかけてきます。ひーちゃんってよばれるのはお友だちみたいだからほんとうはおねえちゃんってよんでほしいんだけど、でもまあそういうところはやはりかわいくてけつきよくいっしょにあそんでしまいます。ときどきわがままなところがいやになるけど、やっぱりわたしのたいせつなかわいいい妹ののぞみだけなので、おねえちゃんとして妹のめんどうをみれるようになりたいです。

来年は妹もがまんしように入学します。

うんどう会ではつうがくだんりレーにいっしょにえらばれてゆうしょうできるようにがんばりたいです。パパにそのことを話したら、すこ

んでした。お父さんは、仕事から帰ると、ごはんを作つたりせんたくをして大いそがしでした。お兄ちゃんとわたしは、お手つだいをたくさんしました。

お母さんは

「ありがとう。りゅうちゃん日向ちゃん助かるわ。」

と、よろこんでくれて、少しずつ元気になりました。

お母さんのおなかがだんだんと大きくなっていて赤ちゃんの心ぞうの音が、「ドク、ドク、ドク。」と、聞こえるようになりました。ときどき、おなかが動いてこぶみたいにニョキツと出るので、びっくりしました。

「赤ちゃんが動いて、手や足を動かしているからやよ。元気な赤ちゃんやねえ。」

と、お母さんは、うれしそうに言いました。わたしは、早く赤ちゃんが生まれるといいなと思っていました。

六月になると、お母さんのおなかはとても大きくなって、お母さんはつらそうでした。わたしは、

「赤ちゃんが元気に生まれますように。」

と、毎日、ゆき姉ちゃんにおねがいました。

六月二十三日、午後一時三十分。

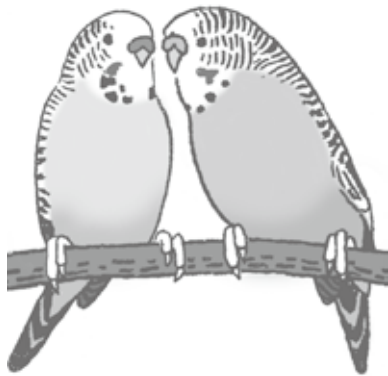
学校に行っている日で、正平先生が「三好さん、赤ちゃんが生まれましたよ。おばあちゃんから電話がかかってきましたよ。男の子ですって、おめでとうございます。」と教えてくれました。



「どこへ行ってたの？何ですつといなかったの？さみしかったよ。」

そんな会話をしているようでした。私にとって、また同じ家で生活出来るピコとの再会は、思ってもいなかった、キセキの出来事で、一生忘れることが出来ません。あの時の再会の感動は、二年経った今も忘れられません。きっとピコも、そうだったと思います。まさかまた自分が戻って来れるとは、思っていなかったでしょう。ピコにとっても、私にとっても、保護してくれた人は、命の恩人です。

でも大切なキイは、戻って来ませんでした。私なら想像出来るキイのこと。キイは、きっとピコを守るために、カラスと戦ったんだと思います。ぼくが、今戦っているうちに、君はにげなど、先にカラスのえじきになって戦ったピコの身代わりになってピコを逃がしキイは命がつかんだと思います。やさしいキイなら、絶対してははずです。考えたらせつなくて今でも涙が出てきます。でも私は、今でも思っています。



けん命土をこねていると、  
「キヤー、ミミズー。」

という声があった。ぼくのパケツにはミミズが入っていなかったけど、男子はミミズを見て「うわー。」

と喜んでいたり、女子は悲鳴をあげたりしていた。

そして、芽だした苗をパケツに植えた。土に指の第一関節までの穴を五ヶ所あけて、苗を五本ずつ植えた。ぼくは、おいしいお米がいっぱいできますようにと願いをこめて植えた。

それから、毎日水をやって観察をした。植えた時は七センチぐらいだった苗が、二週間後には、二十センチまで伸びてきれいな緑色になった。その後もぐんぐん伸びて葉の数も増え、緑色がこくなっていった。葉をさわるとだんだん固くなってきて、じょうぶに育っているなど感じた。六月の終わりには、五十七センチまで伸びて、成長するのは早いなと思った。

ぼくは、六月三十日から三日間山の学習に行き、帰ってきてからもあまり水やりをする時間がとれず、稲の観察をしっかりしていなかった。

七月十日、もうすぐ夏休みが始まるのでパケツ稲を家に持ち帰ろうと、お父さんとお母と一緒に学校にやって来た。しかし、そこで見たほくのパケツ稲は、ほとんどの葉が茶色になっていて、ぐったりしているように見えた。

「祐樹の稲、かれかけてるんじゃないの？」

『キイは、必ずどこかで生きているよ。』

私の心の中で命がつきないように、本当のキイの命も、どこかで、ピコを助けてくれた人みたいに、やさしい人に保護されて、今も生きている。生きていてほしいと、今でも毎日考えています。大切だった思い出も、愛情も注いで生活

入賞  
おめでとう

菅公賞

初めて育てるパケツ稲

愛知県岡崎市 六ツ美北部小学校

5年

武内 祐樹

指導者 鈴木隆

「水やりしたの？」

「今からするところ。」

夏休みに入って、夕方になると毎日のようにぼくとお母さんはこんなやりとりをしている。なぜかという、ぼくは今、パケツ稲を育てていて毎日観察を続けているからだ。

パケツ稲作りは、今年の四月から始まった。四月二十一日、学校で芽出しの準備をした。とうみの容器に水と種もみを二十五つぶ入れて芽が出るのを待った。種もみはだ色で、さわる固くてざらざらしていた。ぼくは、いつ芽を出してくれるのか楽しみだった。

水につけてから六日で芽が出てきた。芽の長さは一センチぐらいで、真っすぐ伸びている芽や丸まっている芽がありおもしろいなと思っ

お母さんが心配そうに言った。ぼくの稲は、他の友達のと比べても明らかに弱々しく、元気がなかった。ぼくは、かれかけた稲を見てショックだった。このままかれてお米ができなかったらどうしようと不安になった。

それからぼく達は稲を持ち帰り、土を加えて水をやった。毎日水をやると、どうか元気になってほしいと願っていた。すると、だんだん緑色の元気な葉が内側から伸びてきて、二週間後には元気な稲にもどってくれた。

七月の終わり、稲の葉に虫に食われたようなあとがたくさんあった。葉やくきに虫がいなかよく見てみたら、くきの下の方にうす茶色の体に、たてじまが数本ある気持ち悪い幼虫を見つけた。

「うわー、なんだこいつ。お母さん、ちょっと来て。」

と、ぼくはあわててお母さんをよんだ。

「何、どうした？」

とお母さんも稲を見てみると、

「何、これ。」

と、気持ち悪そうに顔をゆがめた。そして、家から急いでわりばしとふくろを持ってきて、くきをかきわけ、虫をわりばしでつまみとって退治した。小さなものは一センチぐらい、大きいものは三センチぐらいの幼虫が十ぴきぐらい出てきた。家にもどって、幼虫について調べてみると、ニカメイガの幼虫で、葉やくきを食べて

してきたことも大好きだから、忘れることはありません。二年が経った今でも、私はキイとの生活が、ついこの間まであったように感じます。そして二年間、キイの事を一日も忘れた事はありません。キイが大好きだから、これからもずっと忘れません。

た。芽はほとんど白色だったけど、先の方が緑色になっているのもあった。これから、どのくらい伸びるのかわくわくしてきた。

五月二日、芽は三センチまで伸びて緑色になっていた。真っすぐに伸びていて、早くパケツに植えてあげたいなと思った。

五月九日、芽は六センチに伸びて先の方が分かれていた。それに白い根が出ていて他の根とからまっていた。

ゴールデンウィーク明けに、パケツに植えるための土作りをした。パケツに土と水を入れて手をつっこむと、冷たくて気持ちよかった。上の方の土は泥になったけど、下の方は泥になっていなかった。下の方の土を上げてまぜるのをくり返した。とても大変だったけど、一生

葉が黄色に変わってかれたり、くきの中がからっぽになって、穂ができなかったりするそう。葉が食べられていたのは、多分この害虫のしわざだと思った。そして、かれてしまったくきや葉をすべて取り除いた。

八月の初め、丸まった葉の中から緑色の穂がすがたを現した。ぼくは、

「やったー。」

と声をあげた。このまま、おいしいお米ができてほしいなと思った。でも、その後も害虫が出てきて何度も退治した。何としても害虫から穂を守るぞという気持ちでいっぱいだった。八月は、よく晴れて暑い日が続き、稲はぐんぐん成長し九十センチまで伸びた。穂は日が経つにつれてどんどん増えていき、真っすぐ立っていた穂がこうべをたれてきた。色はまだ緑色だけど、しゅうかくをする前の田んぼの稲に似た形になってきた。穂のつぶを一つ取って割ってみると、白いつぶではなく、白い液体が出てきた。八月の終わりに、穂の色が黄色く色づいてきた。しゅうかくするのが待ち遠しくなった。

ぼくは、パケツの中の少しの稲だけを育てているけど、農家さんは、広い田んぼにたくさん稲があるので大変だなと思った。

「水やり終わったよ。」

今日も元気に稲は育っている。

入賞  
おめでとう

菅公賞  
手紙

東京都小平市 東京創価小学校 6年

渋谷 美佳

指導者 殿崎 誠治郎

今、寄り添い続けたい友がいる。いつも明るく、面白い事をして、みんなを笑わせてくれる元気一杯のクラスメートが、最近元気が無い。

彼女は、いつも一緒にいるグループの子ではないので、席替えて2回も同じ班にならなかつたら、もしかしたら気付かなかつたかもしれない。

彼女が授業に出れずに、毎日、保健室に行っている事を……。

その理由に、色々思いを巡らせてみた。友達的事で悩んでいる？

家族とケンカでもした？

まさか、サボリで？

いや、彼女の性格上、それは絶対じゃない。なにか力になりたい。こんな自分でも、ほんの少しでも、応援できる事は無いだろうか？と真剣に考えてみた。

なぜなら、恩返しをしたいから。私はプールが大の苦手。六年生になって、初めての水泳授業で、ウォーミングアップの蹴伸

反応がすごく気になったけど、返事は待たない事にした。  
一週間後、返事がきた。「とっても嬉しかった」「そんなふうに言ってくれる人、クラスにいなかった」との言葉に、(手紙を出して本当に良かった)と思った。

言葉で人を励ませる事の素晴らしさを知った。何気ない言葉で、簡単に人を傷つけてしまう事もあるし、たった一言でも、人を救う事もできる。もつと人に、元気や勇気の言葉を送れるように、相手を想う心と、表現する力をみがきたいと思った。

お母さんはよく私に「目の前で苦しんでいる人に、寄り添い続ける人になってほしい」と言います。

寄り添う事は誰にでもできて、寄り添い続ける事は容易な事ではない。でも私は友達を信じていた。

まだ彼女のなやみがゼロになった訳ではないけれど、小学校生活最後の年、彼女も私も、卒業式を最高の笑顔で迎えられるように。彼女に寄り添って、励まし続けていきます。

び泳ぎができなかったのは、学年で、ただ一人、私だけだった。皆がスイスイ泳ぐのを横目に、プールのすみっこであたふたしていた、そんなカッコ悪い私の様子を、どこかで見てくれたのかな？彼女は、「次は一緒にやろう」と声を掛けてくれた。そして彼女らしい、とっても面白く分かりやすく、泳ぐコツを教えてくれた。涙が出るほど嬉しかった。

彼女のアドバイスをきっかけに、ついに蹴伸び10m、クロール10m泳げるようになった。

その時の事を思い出しながら、自分に何ができるか、悩んだ。

まずは手紙を書いてみようと思いついた。でも、びんせんを前に、一言目がなかなか出てこない。人を励ますって、簡単じゃない。気持ち言葉をにする事は、本当に難しいと実感。自分の文章力の無さにもガツカリする。何回も書き直してやっと仕上げた二枚の手紙。彼女のレッスンジャーになりました。少しでも、元気がなつてくれますようにと思いを込めて、渡す事ができた。

